

[第1号議案(1) 2016年度(平成28年度)活動報告]  
2016年度活動報告

2016年4月1日～2017年3月31日まで

ヒューマンネットながの  
長野市鶴賀七瀬中町 211-15  
ゆたかフレンズ 2F  
理事長 本間 吉治  
電話 026-268-0622

## 1. 会 員 状 況

- |           |    |     |
|-----------|----|-----|
| (1) 正 会 員 | 個人 | 27人 |
| (2) 応援会員  | 個人 | 85人 |
| (3) 賛助会員  | 法人 | 1社  |

## 2. 活 動 の 成 果

～はじめに～

昨年8月9日に69歳の若さで急逝した前理事長「島崎潔さんを偲ぶ会」が、長野市の「メルパルク長野」で開かれました。

ヒューマンネットながのの基本理念「サービス&アドボカシー」を打ち立てるきっかけとなった、「車いすヨーロッパツアー」「パークレー視察」「わたぼうしコンサート」の仲間など117名が全国各地から駆けつけて弔意を表しました。本間吉治新理事長の開会あいさつで始められた会は、進行役の吉澤利政副理事長からの略歴紹介、小池正志(親友)・矢吹文敏(車いすツアー)・羽入田幸子(ヒューマン)各氏からの偲ぶメッセージが披露され、献杯を挟んで各界10人の方々からのテーブルスピーチも披露されました。

ご遺族を代表してあいさつに立った奥様の「懸命に走り続けた島崎の灯した火をみんなで受け継いでほしい。」の言葉を参加者全員でかみしめて会は閉じられました。

偲ぶ会の参加者に配布された「人間っていいなあ・島崎潔追悼集」には彼の歩んできた歴史・写真とともに多くの方々からの追悼の言葉が掲載されています。

挟間 孝(事務局長)

部署名: サービス事業部

事業名: サービス事業全般(詳細は部署毎)

報告者: 荒川 哲哉(統括管理者)

### 【活動内容】

サービス提供実績及び利用者数、売上ともほぼ横ばい。経常経費微増分、若干の赤字決算となった。構造的に大幅な黒字決算は望めない中で、サービス需要に対する慢性的な供給(従事者)不足と「放課後デイサービス事業所」の開所再延期が主たる原因と考えられる。

人員不足解消に向けては引き続き「処遇改善計画」を実行(対象となる職員の基本給及び賞与・一時金を増額支給しながら資格取得や外部研修参加についても積極的に後押し)し、更には手当金の増額や一部部署での勤務体制見直しを実施するも本質的な解消には至らず。もはや一法人で解決できる趣旨の話ではなくなりつつある。

「放課後デイサービス事業所」開所再延期については予定物件の工期再延長という、如何ともし難い状況となった為。当該事業に関してはブラック企業ならぬブラック事業所が数件摘発される事態となり、指定及び運営基準も改正された(る)方向。児童支援センターは開所以来の蓄積されたノウハウと、今後の事業の方向性についても(スタッフ間で)具体化・

共有化されており、「サービスの質」については十分担保されていると確信している。当事者及び保護者はもちろん、関係機関との連携を密にし「夏季休暇中のプレオープン、10月開所」の方向で準備にあたっている。

その他、当期より委託会計事務所を変更、さらに労務管理の一部を社会保険労務士法人へ委託し、月締や期末の事務作業効率化に一役買った。恒例となった全職員を対象とした個別面談では、個々で当期の振り返りをする一方、法人への意見・要望も多数寄せられ有意義な機会となった。法人事務局主導である「認定NPO法人格」取得活動においては、(本来の趣旨からすれば「より広範的」に募るべきところ)多くのサービス事業部所属職員から賛同を得、寄付金を頂いた。

#### 【成 果】

- ① 資格取得及び研修参加への積極的後押し。
- ② 「経営企画会議」による直近の課題把握とその解決。

#### 【課 題】

- ① サービス&アドボカシーの実践、継続。
- ② 従事者数及びサービスの質の確保。
- ③ 放課後等デイ事業所の円滑な開設と運営。
- ④ 勤怠システムの改修(労務管理機能の強化)

部署名：長野ステーション

事業名：ヘルパー派遣事業、福祉移送サービス事業、タイムケア事業、法定外サービス事業

報告者：久米田 利恵子(所長)

#### 【活動内容】

昨年度同様、同行援護サービスや福祉移送サービスを伴う依頼が多く、車両の増車や常勤職員の対応でサービスを補うなどして、何とか新規利用者を受け入れることができた。

介護保険のサービス依頼や移行していく利用者、現代病である糖尿病を患う利用者も多くなる傾向にあり、それに対応できる従事者のスキルアップが急務となっている。

従事者の人員不足が改善されない中、今年度も外部講師(市の健康出前講座など)による「介護保険制度、糖尿病、ストレスを貯めないなど」の「健康とスキルアップ」を兼ねた研修会を開催した。法定外サービス事業については、入院時、法定サービスの代替サービスとして利用され評価を頂いている。

#### 【成 果】

- ① 従事者の研修会を開催することにより体調管理の意識付けができ、サービスもスムーズに行われている。
- ② 法定外サービス事業で入院時に利用していただいたことにより、退院後スムーズにサービス提供ができた。

#### 【課 題】

- ① 従事者の人員確保。
- ② 利用者毎のケア会議を開催し、情報共有に努める。
- ③ 福祉移送サービスの依頼が多くなり、効率よく配車をしていく。

部署名：上田ステーション

事業名：ヘルパー派遣事業、福祉移送サービス事業、(特医)丸山会受託事業、法定外サービス事業

報告者：荒川 哲哉(所長)

#### 【活動内容】

管理者1名、サービス提供責任者4名、パート職員30名の体制でサービスを提供した。

ヘルパー派遣事業については、①居宅介護(身体介護・家事援助・通院等介助)10,362時間/67名②行動援護603時間/8名③同行援護2,872時間/21名④移動支援3,492時間/60名⑤訪問介護1,260時間/9名⑥法定外361時間/19名(サービス重

複有り)のサービス実績。利用時間数、利用児(者)数とも、微増であった。その他、人員不足の「グループホームじょんのび」へ「日勤480時間、夜勤29泊」3名を通年派遣した。

新規依頼のサービス傾向として「精神障害者及び知的障害者に対する通院補助、見守りの家事、同居人との関わり補助」といったある意味漠然とした依頼が主で、ヘルパーの習熟度を要求されるケースが殆ど。結果として、常勤(サービス提供責任者)対応かベテランヘルパーにサービスが集中してしまい、一層人手不足を招く事態に。従事者確保に関しては(当地域においてもご多分に漏れず)深刻で、当期は上田ステーション開設以来初の「求職者0人」という信じがたい状況となった。

サービス提供責任者4名体制下では、個々の担当利用者を細分化した事で迅速な対応(利用者ニーズの吸い上げ、関係期間との連携)を構築できた反面、担当外の案件(事務的な事案を含む)に関しては後手を踏む場面も見受けられ課題を残した。

#### 【成 果】

- ① 国家資格取得や各種研修参加への便宜。
- ② ヘルパー会議開催による課題の共有及び解決。

#### 【課 題】

- ① 従事者数及びサービスの質の確保。
- ② サービス提供責任者(4名)間の情報共有と連携、それを把握する管理者。
- ③ 移送ドライバーの高齢化とその対策。
- ④ 主催研修の通年開催及び内容精査。

部署名：相談支援センター

事業名：計画相談支援事業

報告者：小林 玲子(所長)

#### 【活動内容】

相談支援センターとしての業務も2年目となり新規の利用者7名を合わせ、48名の相談支援業務を行った。相談件数はケアプラン作成とモニタリング合わせ、延べ75件。受給者証の更新に関する相談、プランの作成を中心にした相談業務を行っている。

最近介護保険に移行となる利用者が障害サービスも併給することで今までと変わる事なく安心して日常生活が送れる様、ケアマネと連携を取りながら支援するケースも増えてきた。(独居生活を送っていた利用者が、骨折が原因で若年性認知症を発症。自宅での生活が困難となった為、長野市CW、保健師、医療関係者と会議を重ね入院治療が受けられるようになった等)

また、長野市より自閉症施設の入所者の計画相談の依頼を受けるなど相談内容及び範囲も拡大してきた。

#### 【成 果】

- ① 支援会議で情報を共有することで、行政始め、ヘルパー支援事業所等、関係機関との連携が取りやすくなった。そのため利用者一人々のニーズに合ったプランの計画、作成ができ、継続した支援に繋がっている。

#### 【課 題】

- ① 現在、専従の相談支援専門員1名、兼務1名で業務をこなしている状態にある。今後、多種多様な相談内容に対応できるよう相談支援専門員の増員は必須だ。
- ② 相談支援専門員のスキルアップのため、研修会参加の時間確保。

部署名：りあん

事業名：生活介護事業

報告者：乾 恵理子（サービス管理責任者）

#### 【活動内容】

前年度と変わらず登録者数は12名で1日平均6名の利用であった。さらなる利用者確保の為、各相談支援事業所や特別支援学校の進路担当部署へ定期的に営業活動を行った。

生産活動の一環として昨年10月より内職作業を請け負う。また自主製品では各資材および製菓製造会社と卸契約を結ぶことができた。販売活動についても各特別支援学校やふれあい福祉センターへ出向き利用者と直接販売を行った。

創作活動については「上田の真田丸大河館」や「佐久のイオンタウン」へ長野市のリフトバスを利用し外出活動を行う。地域への行事参加も毎年恒例の「朝陽びんずる」、「堀神社秋季大礼祭」での獅子舞演舞等の夜レクリエーションを行った。

#### 【成果】

- ① 平成29年5月より1名の利用者増。また既存の利用者の利用日数増により1日平均7名に増加。特別支援学校からは見学や実習の依頼が来ている。
- ② 定期的な仕事（生産活動）を確保できた為、毎月の工賃支払が可能となった。また、自主製品は各種販売活動や仕入れ値の見直しを行った結果、飛躍的に収入が増加し年度末賞与の支払いが可能となった。さらに、季節毎に委託販売を行ってもらえる店舗（ロン都イーストプラザ等）も獲得できた。今までは紙すきを基幹としていたが、コスト面で薄利なため新たな製品販売（アーティシシャルフラワーアレンジメント）を行う予定である。

#### 【課題】

- ① 生産活動が増え創作活動が少なくなっている。生活介護事業としての本質を見失わないようバランスを考えていきたい。
- ② 更に販路拡大を行いたい但し人員面で手が回らない。
- ③ 利用者増と施設の経年劣化に伴う、設備の拡充・修繕。

部署名：じよんのび

事業名：共同生活援助事業

報告者：松澤 しげ美（サービス管理責任者）

#### 【活動内容】

現在入居者3名。長年従事してきた前任者（サービス管理責任者）の退職を受け、それに伴う職員入替を実施した。（支援体制が変化中）入居者個々に若干の動揺と混乱が見受けられたものの「グループホームじよんのび」らしさを見失わないよう活動してきた。

今年度も「カラオケやイベント参加（イルミネーション等）」の外出活動、デリバリーサービス（健康面を考慮し回数を減らしつつ）活用するなど入居者の希望に沿った支援を実施。入居者個々の体調・健康状態を気遣いながらの支援に努めた。

昨年度から課題となっていた従事者の負担軽減については、事業部内で検討、保護者会で承認を得、「早日勤・日勤・夜勤」の3交代勤務を導入した。

#### 【成果】

- ① 食生活の見直しをすることにより、支援者入居者とも健康に対する意識を高めることができた。
- ② 従事者の3交代勤務を導入することにより（入居者が体調不良で通所出来ない場合など）緊急時の対応が可能となった。

#### 【課題】

- ① 3交代勤務とし勤務時間短縮としたものの、職員の絶対数は依然不足している（特に宿泊対応者）。
- ② イベントへの参加など自分たちで考え楽しみを見つけられる支援を心がける。

部署名：児童支援センター

事業名：長野市障害児自立サポート事業、ヘルパー派遣事業、福祉移送サービス事業

報告者：木村有希（児童発達支援管理責任者）

#### 【活動内容】

現在登録（自立サポート）19名。法定サービスのみ利用（行動援護、身体介護）2名。平日放課後の一時預かりと土曜及び長期休暇中の日中預かりの2本柱で、就学児を対象にサービスを提供した。

新しい試みとして、ステーションの花壇スペースやプランターなどを利用したミニ菜園を実施、季節ごと数種類の野菜などを収穫し、調理の活動などに利用した。また例年に引き続き、地域に根差した支援をめざし社会勉強の一環として公共の場や交通機関を利用しての外出などを行った。さらに他事業所とのつながりを図るため、通年でふくしネットへの参加や他事業所（放課後等デイサービス事業）の見学などを行った。

#### 【成果】

- ① 新しい試み（ミニ菜園、食育等）を加えたことは、放課後等デイ事業に向けた活動内容改善の足掛かりとなった。
- ② ふくしネットへの参加や他事業所との交流を図ったため、地域の相談支援専門員からの問い合わせが徐々に増えてきている。

#### 【課題】

- ① 放課後デイ事業所（平成29年10月度開所）の準備と安定的な運営。

部署名：法人事務局

事業名：受託事業（長野市ユニバーサルタウンマップシステム作成業務、長野市障害福祉サービスガイドWEBシステム作成業務）

報告者：川崎昭仁（事務局受託担当）

#### 【活動内容】

これまで助成金を使い取り組んできた両事業だが、長野市がホームページのリニューアルに伴い、障害者向けのコンテンツを充実させる目的で委託事業となった。

タウンマップシステムは、調査内容を市の要望に沿った内容に見直し。昨年「真田丸」で話題となり観光客が増加した松代を約30名のボランティアの協力を得て調査を行った。その情報と市が管理する公共施設の情報をアプリに追加した。アプリのシステムも機能を見直し、IT会社「KISS」に制作を委託した。

サービスガイドは事業所の検索機能を追加し、IT会社「K&F コンピュータ」に制作を委託。事業所情報は当事者の方に在宅で入力作業を行ってもらった。

その他、「障害者差別解消法」に伴う講演活動や、小中学校や福祉イベントで車イス体験を実施。

#### 【成果】

- ① タウンマップシステムについては、これまでの民間施設約200件に加え、市の公共施設500件のデータを追加し、観光だけでなく生活レベルで使えるアプリを作ることができた。また、システムを見直したことで調査内容を明確にすることができた。今後も市から管理委託を受け、事業を継続していく
- ② サービスガイドについては、サービス内容の検索に加え、事業所約200件の検索機能を追加することができ、冊子を網羅した形で市に譲渡することができた。
- ③ その他「障害者差別解消法」の施行のせい、小中学校だけでなく公民館主催の学習会などからの講演依頼が多く、それぞれに対応することができた。また、前理事長の障害者の権利運動やマップの制作活動により、当法人が障害者権利やユニバーサルデザインについて注力していることが周知された。

#### 【課題】

- ① タウンマップシステムはまだ見直す余地あり。継続性を考慮すると引き続き管理委託を受け対応せざるを得ないだろうが、費用対効果に十分配慮する必要がある。